

2021年3月期第3四半期
決算説明資料

東証1部： 6333



株式会社 帝国電機製作所

1.	2021年3月期第3四半期決算	3
2.	2021年3月期業績見通し	13
3.	環境経営への取組み	21
4.	参考資料	24



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2021年3月期第3四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2021年3月期第3四半期決算概要



(百万円)	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	構成比 (%)	2021年3月期 第3四半期 連結累計期間	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	17,777	100	14,460	100	▲3,316	▲18.7
売上原価	10,514	59.1	9,073	62.7	▲1,440	▲13.7
売上総利益	7,262	40.9	5,386	37.3	▲1,876	▲25.8
販売費及び一般管理費	4,412	24.8	3,692	25.5	▲719	▲16.3
営業利益	2,850	16.0	1,693	11.7	▲1,156	▲40.6
経常利益	2,903	16.3	1,817	12.6	▲1,085	▲37.4
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,992	11.2	1,825	12.6	▲167	▲8.4

新型コロナウイルスの影響等により減収減益

売上高

売上高減少の主な要因

- ・ 前期売上好調の反動減に加え、新型コロナウイルスの影響に伴う経済活動の減速により、顧客の設備投資やプロジェクトの延期が相次いだこと
- ・ 電子部品事業は、新型コロナウイルスの影響による自動車需要の減少の影響（2Q以降は回復傾向だが本格回復には時間を要する）

営業利益

営業利益減少の主な要因

- ・ 売上減少による減益

（中国の修理子会社清算による未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによるプラス要因 = 2Q : 69百万円、3Q : 318百万円）

親会社株主に帰属する 四半期純利益

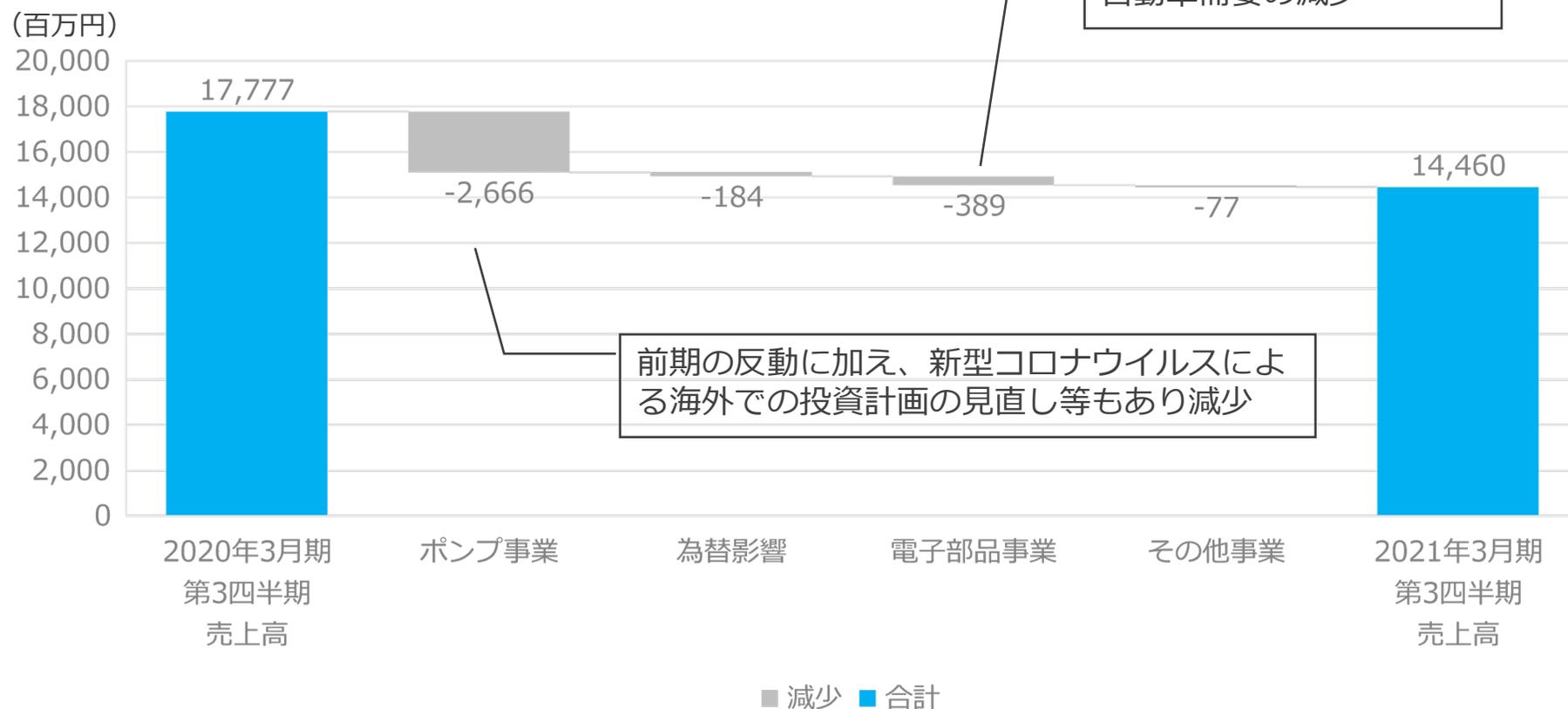
前期比▲8.4%減少

（中国の修理子会社清算による未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因 = 2Q : 117百万円、3Q : 348百万円）

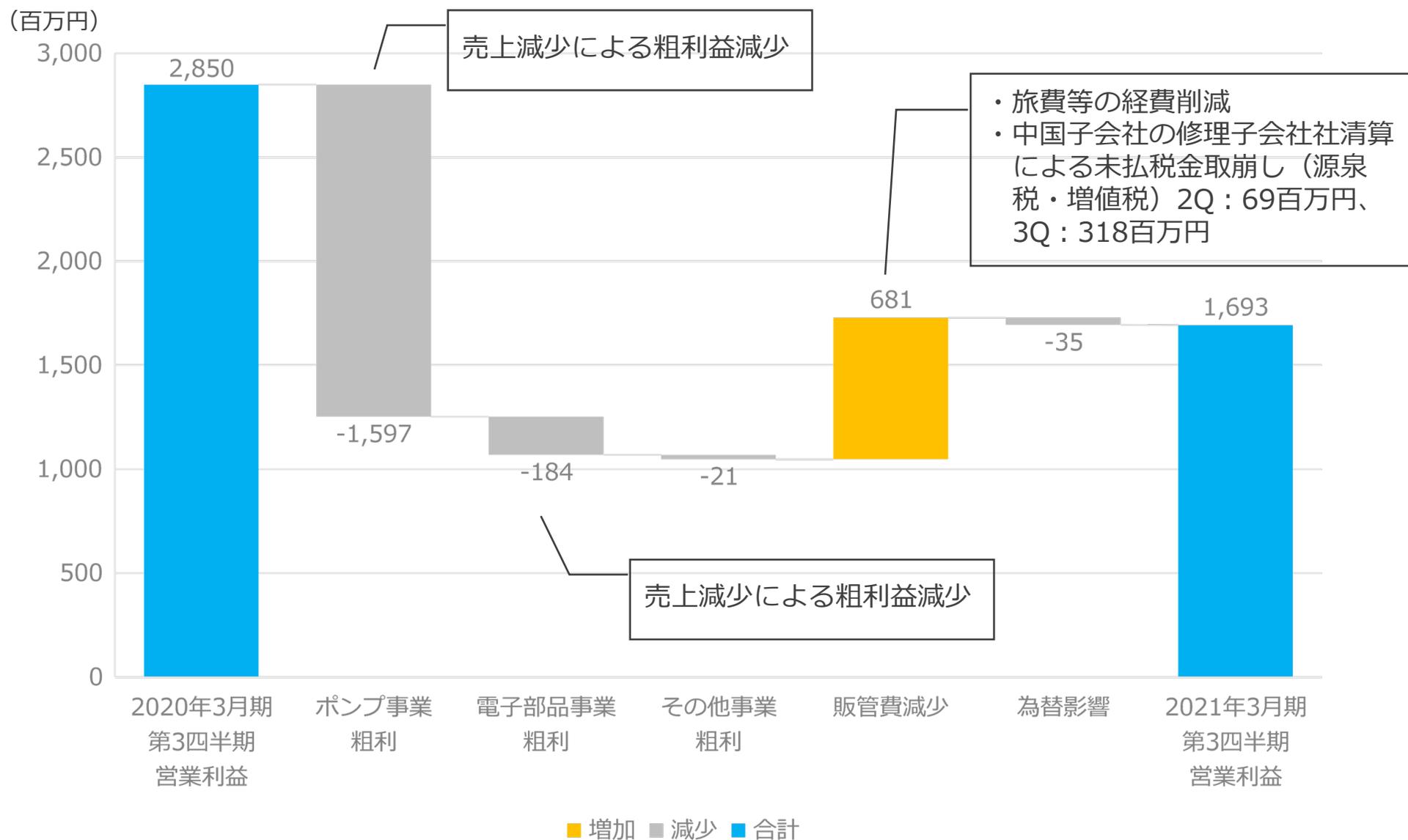
売上高増減分析



期中平均レート推移	2020年3月期第3四半期	2021年3月期第3四半期
U S ドル	109.13円	107.56円
人民元	15.89円	15.37円
ユーロ	122.62円	120.94円



営業利益増減分析



種類別セグメント（売上高・営業利益）



- 新型コロナウイルス等の影響によりポンプ事業、電子部品事業とも減収減益

(百万円)		2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	2021年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	15,872	13,022	▲2,850	▲18.0%
	営業利益 (営業利益率)	2,708 (17.1%)	1,736 (13.3%)	▲971	▲35.9% (▲3.8%)
電子部品事業	売上高	1,499	1,109	▲389	▲26.0%
	営業利益 (営業利益率)	65 (4.3%)	▲101 (-%)	▲166	- (—)
その他	売上高	405	328	▲77	▲19.0%
	営業利益 (営業利益率)	76 (19.0%)	58 (17.8%)	▲18	▲23.9% (▲1.2%)
合計	売上高	17,777	14,460	▲3,316	▲18.7
	営業利益 (営業利益率)	2,850 (16.0%)	1,693 (11.7%)	▲1,156	▲40.6% (▲4.3%)

ポンプ事業 所在地別売上高



- 日 本・・・国内はケミカル向けが堅調で増収だが輸出が減少
- 欧 米・・・米国は原子力向けが増加したものの主力のケミカル向けが減少し減収
- アジア・・・中国は、第2四半期以降、ケミカル向けを中心に回復傾向にあるものの、前期好調であった反動減や第1四半期に新型コロナウイルスの影響を受けたこと等により減収

(百万円)		2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	2021年3月期 第3四半期 連結累計期間	増減	増減率
日本	売上高	5,281	5,369	+87	+1.7%
欧米	売上高	3,865	3,249	▲615	▲15.9%
アジア	売上高	6,725	4,403	▲2,322	▲34.5%
合計		15,872	13,022	▲2,850	▲18.0%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

- 前期売上好調の反動減や海外プロジェクトの延期等によりケミカル機器用大きくが減少

(百万円)	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間	比率 (%)	2021年3月期 第3四半期 連結累計期間	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	8,860	55.8	6,828	52.4	▲2,032	▲22.9
冷凍機・空調機器用	1,471	9.3	1,347	10.3	▲123	▲8.4
電力用（車両用）	548	3.5	321	2.5	▲226	▲41.4
電力用（地上用）	406	2.6	437	3.4	+30	+7.6
定量注入機器	323	2.0	312	2.4	▲11	▲3.5
その他ポンプ	69	0.4	193	1.5	+123	+179.2
メンテナンス	4,192	26.4	3,582	27.5	▲610	▲14.6
合計	15,872	100.0	13,022	100.0	▲2,850	▲18.0

●受注は新型コロナウイルス等の影響により減少

(百万円)	2020年3月期 第3四半期 連結累計期間		2021年3月期 第3四半期 連結累計期間		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	15,547	9,262	13,057	8,336	▲2,490	▲925
電子部品事業	1,495	144	1,124	125	▲370	▲19
その他	357	58	368	128	+11	+70
合計	17,399	9,466	14,550	8,591	▲2,849	▲874

要約貸借対照表



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)

資産の部	2021年3月期 第3四半期 連結会計期間	前期末増減	負債の部	2021年3月期 第3四半期 連結会計期間	前期末増減
流動資産	23,818	+87	流動負債	5,395	▲1,429
現預金	11,473	+957	支払手形・ 買掛金	1,978	▲153
受取手形・売掛金	7,671	▲673	短期借入金	365	▲86
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	4,724	▲172	未払法人税等(※)	190	▲754
固定資産	10,688	▲358	その他(※)	2,862	▲436
有形固定資産	8,478	▲227	固定負債	964	+63
無形固定資産	420	▲144	純資産	28,146	+1,095
投資その他の資産	1,789	+14	(内自己株式)	(▲927)	(0)
資産合計	34,506	▲271	負債・純資産合計	34,506	▲271

※ 中国子会社の修理子会社2社清算に係る未払税金取崩し
未払法人税等：3Q・▲348百万円（2Q・▲117百万円）
その他（うち未払金より）：3Q・▲318百万円（2Q・▲69百万円）



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ ——
私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2021年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

2021年3月期決算への影響

- 新型コロナウイルスの影響による経済活動の減速により顧客の設備投資やプロジェクトの延期が相次いでいる。

現在の状況

国名	足許の状況	生産・営業活動
日本	<ul style="list-style-type: none">・ 特に移動制限等はなく客先のプラントも稼働している・ 一部で客先訪問の制限あり	<ul style="list-style-type: none">・ 工場は通常稼働、営業や技術部門等の一部が交替でテレワークを継続・ 受注状況は、更新需要等は堅調だが海外新規プロジェクト案件減少により輸出減
欧米	<ul style="list-style-type: none">・ 感染拡大が止まらず経済活動に影響	<ul style="list-style-type: none">・ 米国子会社の工場は通常どおり稼働中、営業・管理部門は交替でテレワークを継続・ 欧州は一部地域で再びロックダウン
アジア	<ul style="list-style-type: none">・ インドは感染拡大中だが経済的事情から一部を除きロックダウンは解除されている・ 中国、韓国、東南アジアは沈静化	<ul style="list-style-type: none">・ 中国子会社は通常稼働・ 中国は足許の受注は回復傾向にある・ インド子会社は通常稼働・ 韓国、東南アジアは通常営業だが一部で客先の訪問制限あり

業績見通しの前提条件



セグメント別		
ポンプ事業	日本	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響を受け、堅調であった国内も徐々に下降、輸出も回復していないことから前回修正計画（昨年11月）を下回る見込み。
	欧米	<ul style="list-style-type: none"> ・第2四半期（※）以降、新型コロナウイルスによる経済活動の減速により、プロジェクト案件の延期・中止や見直し等の影響を受け減収だが、前回修正計画は上回る見通し。利益は、ほぼ前回修正計画どおりの見通し。
	アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・中国は、第1四半期に移動制限の影響で受注が落ち込んだものの、第2四半期以降の回復が想定よりも早く、売上は前回修正計画を上回る見通し。利益も売上増加や修理子会社の未払税金取崩計上等により前回修正計画を上回る見通し。
電子部品事業		<ul style="list-style-type: none"> ・第2四半期以降、自動車需要が回復傾向にあることから、収益が改善し、前回修正計画よりも赤字幅は縮小する見込み。

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)

1US \$ =107.0円、1€=120.0円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円
 (前期実績レート: 1US \$ =109.0円、1€=122.0円、1元=15.8円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円)

今期計画（業績見通し）



業績上方修正理由

主力のポンプ事業で、中国市場や欧米市場において、前回修正計画（昨年11月）を上回る見込みとなったことや、第3四半期に中国子会社の修理子会社1社を追加で清算したことに伴う未払税金取崩し益計上により、全体として前回修正計画を上回る見込みとなった。

(百万円)	2020年3月期 (実績)	構成比 (%)	2021年3月期 (前回予想)	2021年3月期 (今回修正予想)	構成比 (%)	前回 計画比	前期比 増減	前期比 (%)
売上高	23,576	100	19,010	19,390	100	+380	▲4,186	▲17.8
売上原価	14,138	60.0	11,920	12,140	62.6	+220	▲1,998	▲14.1
売上総利益	9,437	40.0	7,090	7,250	37.4	+160	▲2,187	▲23.2
販売費及び 一般管理費	5,686	24.1	5,370	5,120	26.4	▲250	▲566	▲10.0
営業利益	3,750	15.9	1,720	2,130	11.0	+410	▲1,620	▲43.2
経常利益	3,829	16.2	1,840	2,290	11.8	+450	▲1,539	▲40.2
親会社株主 に帰属する 四半期純利益	3,155	13.4	1,350	2,180	11.2	+830	▲975	▲30.9

※ 前期特殊要因：前期は、中国子会社の修理子会社1社清算（済南）により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費：285百万円、法人税等：459百万円）

※ 今期特殊要因：中国子会社の修理子会社2社清算（成都・無錫）により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。

（2Q=販管費：▲69百万円、法人税等：▲117百万円 3Q=販管費▲318百万円、法人税等：▲348百万円）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



	(百万円)	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (前回予想)	2021年3月期 (今回修正予想)		前回 計画比	
				(上期実績)	(下期計画)		
ポンプ事業	売上高	21,061	17,090	17,430	8,738	8,692	+340
	営業利益 (営業利益率)	3,542 (16.8%)	1,780 (10.4%)	2,130 (12.2%)	1,037	1,093	+350
電子部品事業	売上高	1,965	1,540	1,550	646	904	+10
	営業利益 (営業利益率)	106 (5.4%)	▲130 (-)	▲70 (-)	▲158	88	+60
その他	売上高	548	380	410	213	197	+30
	営業利益 (営業利益率)	101 (18.5%)	70 (18.4%)	70 (17.1%)	45	25	0
合計	売上高	23,576	19,010	19,390	9,598	9,792	+380
	営業利益 (営業利益率)	3,750 (15.9%)	1,720 (9.0%)	2,130 (11.0%)	923	1,207	+410

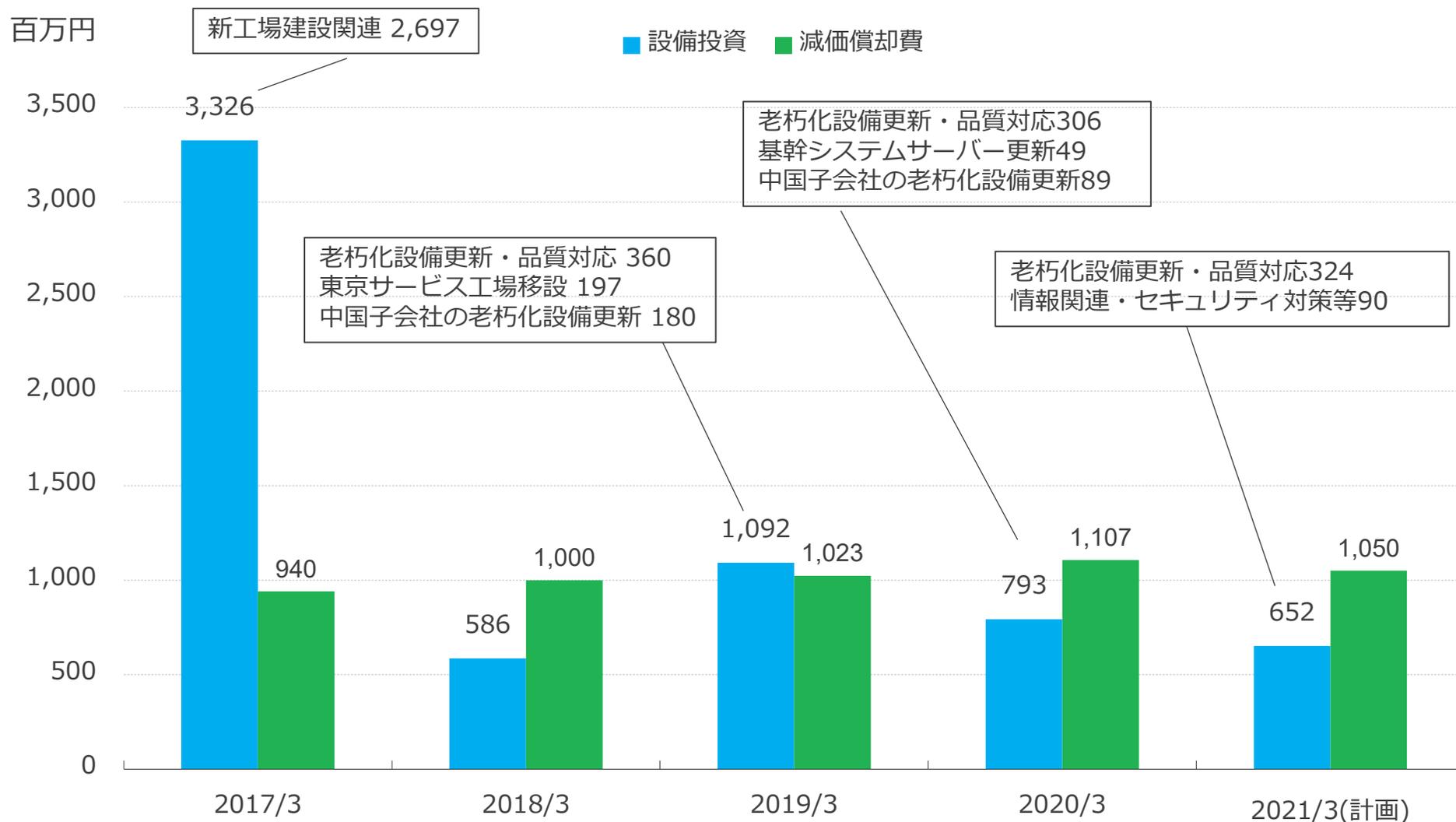
ポンプ事業 所在地別見通し（売上高）



(百万円)	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (前回予想)	2021年3月期 (今回修正予想)		前回 計画比	
			(上期実績)	(下期計画)		
日本	7,506	6,950	6,510	3,708	2,802	▲440
欧米	5,139	4,300	4,510	2,237	2,273	+210
アジア	8,415	5,840	6,410	2,793	3,617	+570
合計	21,061	17,090	17,430	8,738	8,692	+340

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

設備投資・減価償却費計画



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
 拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当 安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得 市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予定)
年間配当金	24円	36円	36円
配当性向(連結)	46.7%	※22.5%	32.5%

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得、総還元性向26.2%



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

3. 環境経営の取組み



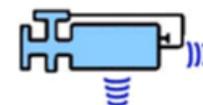
株式会社 帝国電機製作所

環境への取組み

① 製品自体が環境貢献

主力製品であるキャンドモータポンプ

- ・ 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・ 運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

現在、更なる省エネタイプ（高効率ポンプ）を開発中

②当社ポンプの環境貢献例

土壌汚染対策

環境保全型農業製品の製造装置

土壌汚染の防止や安全な農作物の生産を目指す環境保全型農業に適した、肥料や農薬等の農業製品の製造には、高精度な設備が求められます。

有害物質を含む液体が移送されるプラント

液漏れ＝土壌汚染になることから「完全無漏洩」であることが土壌汚染対策となります。

水質汚濁対策

工業排水処理用施設で使用される污水処理装置

下水汚泥燃料化設備

海に流出した汚泥を回収し、含まれている炭素成分を取り出し燃料化します。

上下水道の浄化システム用オゾン発生装置

大気汚染対策

製油所の脱硫装置

大気中に有害物質である硫黄酸化物を放出させないために、製油所では原油に多く含まれた硫黄分を低減する脱硫装置を使用しています。

オゾン層保護

温暖化係数の低い安全なCO₂を冷媒とする冷凍装置

家電や自動車等から回収されたフロン分解処理設備

空調機器や冷凍機器等で使用する代替フロン製造装置

火力発電所の排ガスからCO₂を回収するプラント

テイコクの TEIKOKU キャンドモータポンプ

再生可能エネルギー

下水処理場の下水汚泥ガス化発電システム

太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置

地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置

パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

バイオ燃料

市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント

LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

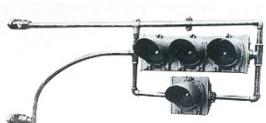
4. 参考資料



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

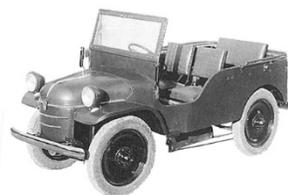
1958年
A型モータ
を試作

1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収

2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

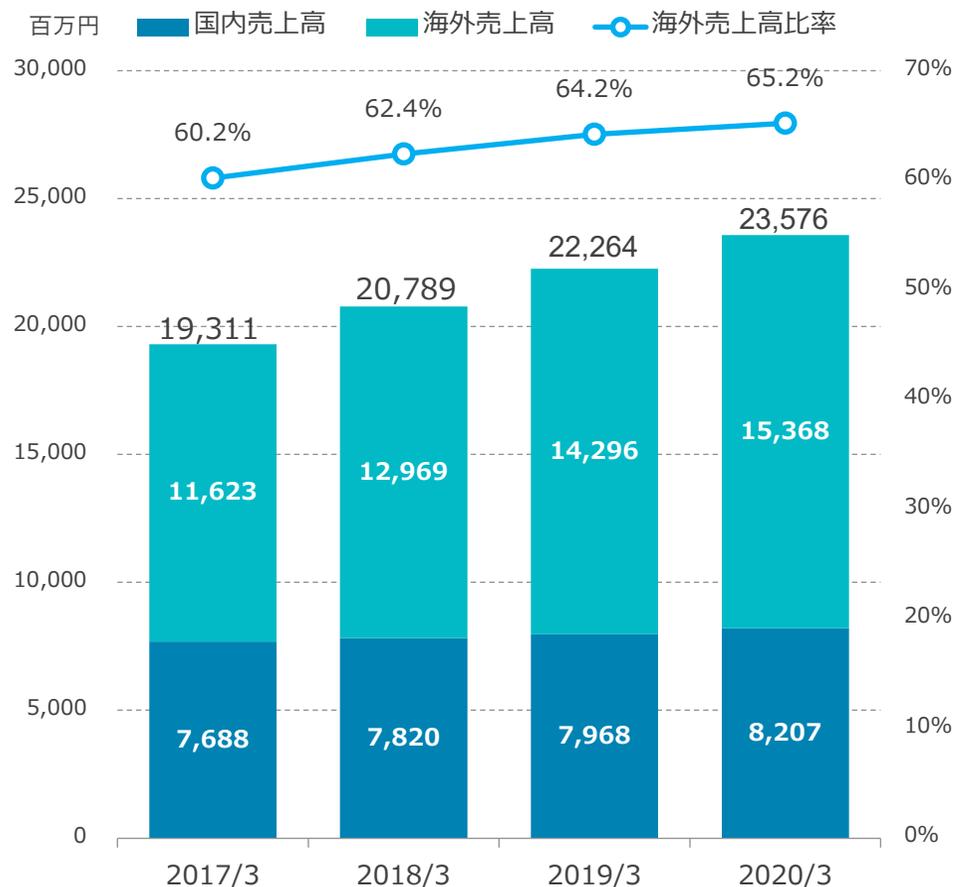


1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

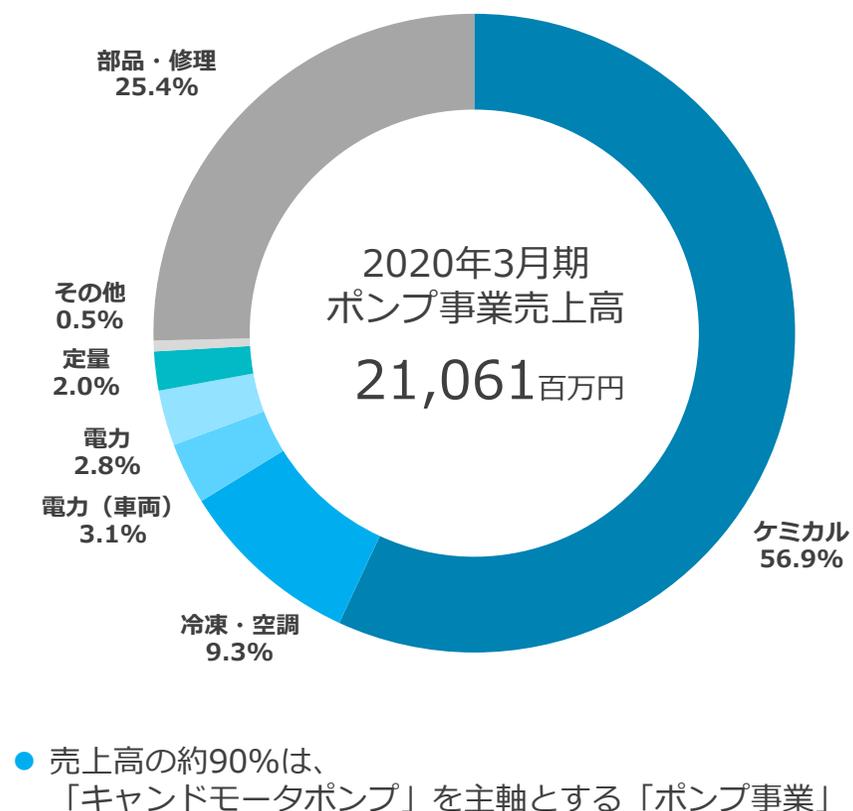
2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率

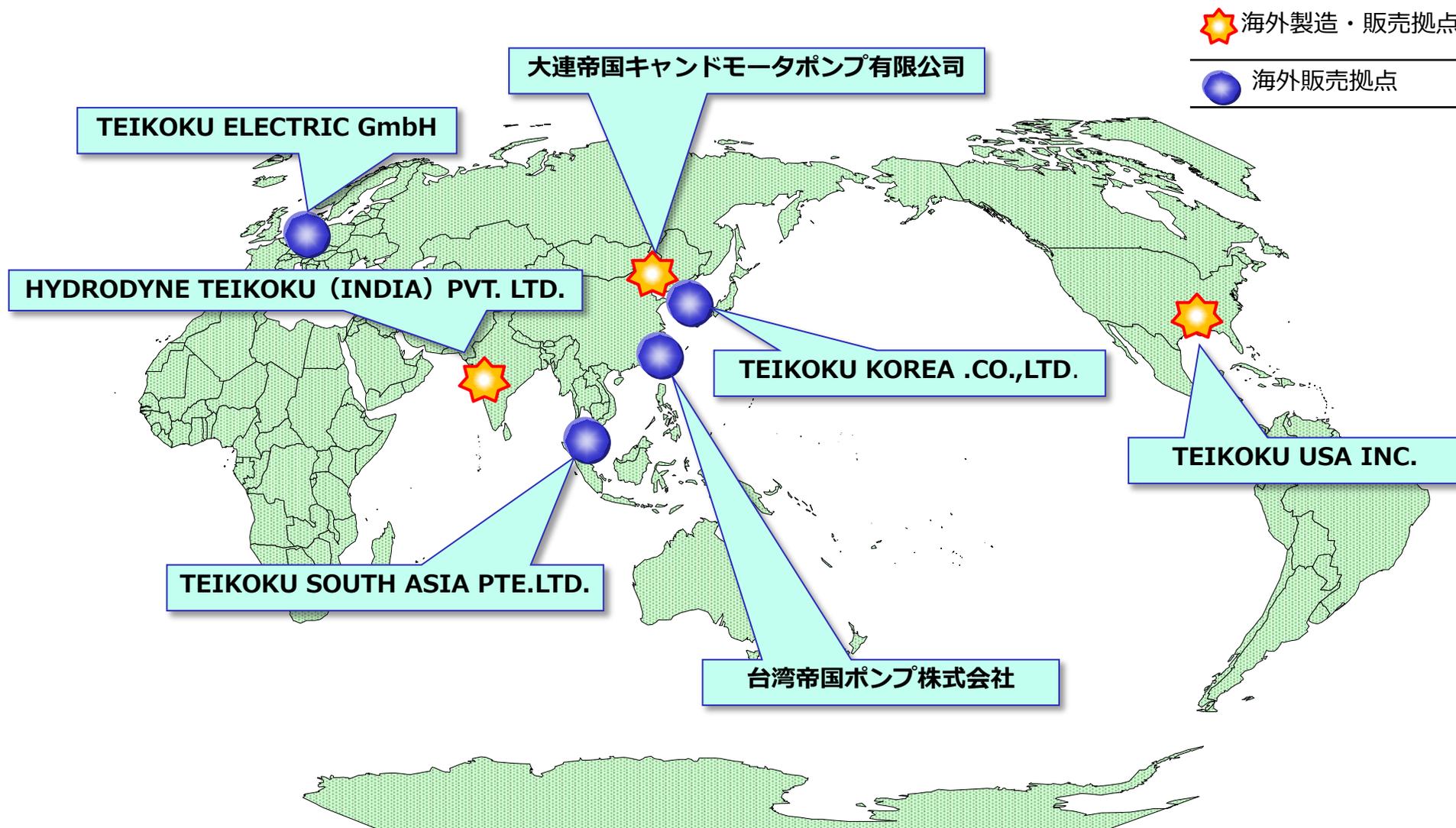


過去業績の推移



	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高 (百万円)	20,748	19,311	20,789	22,264	23,576
営業利益 (百万円)	2,168	1,666	2,300	2,025	3,750
営業利益率 (%)	10.5	8.6	11.1	9.1	15.9
ROE (%)	5.9	4.9	6.1	4.1	12.2
ROA (%)	6.5	5.4	7.1	6.6	11.1
配当性向 (%)	21.1	26.4	26.8	46.7	22.5
受注高 (百万円)	21,759	18,146	21,723	24,893	22,234
受注残高 (百万円)	7,504	6,339	7,273	9,843	8,501

当社の海外展開



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



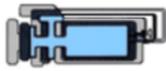
軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



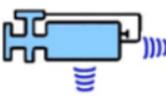
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース

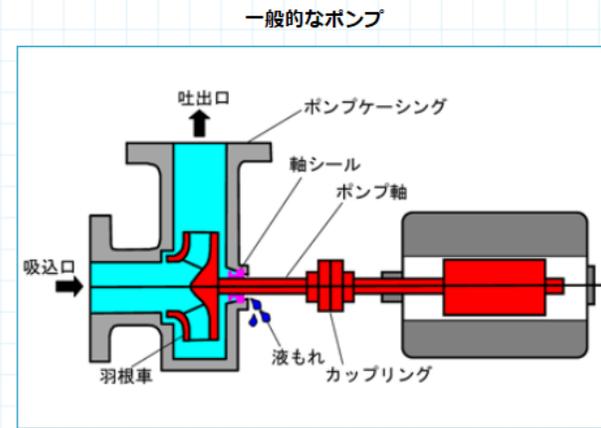


モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

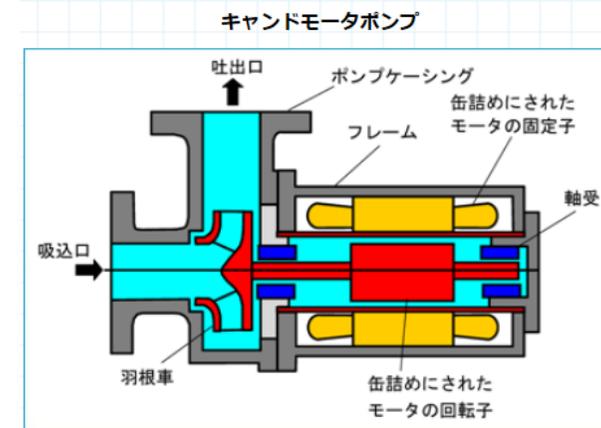
6 静かな運転音



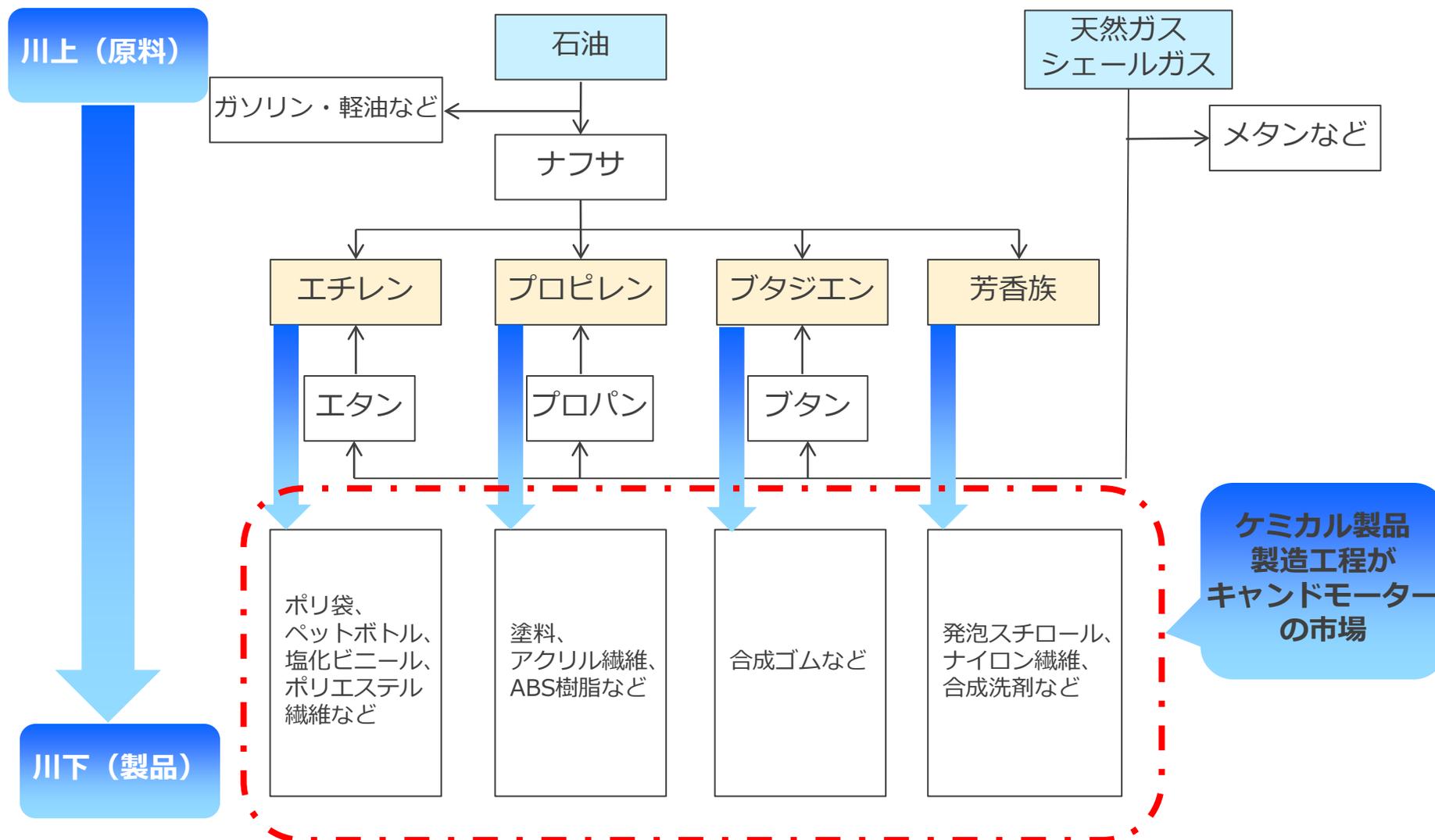
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。



軸シール部から漏洩してしまいます。



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

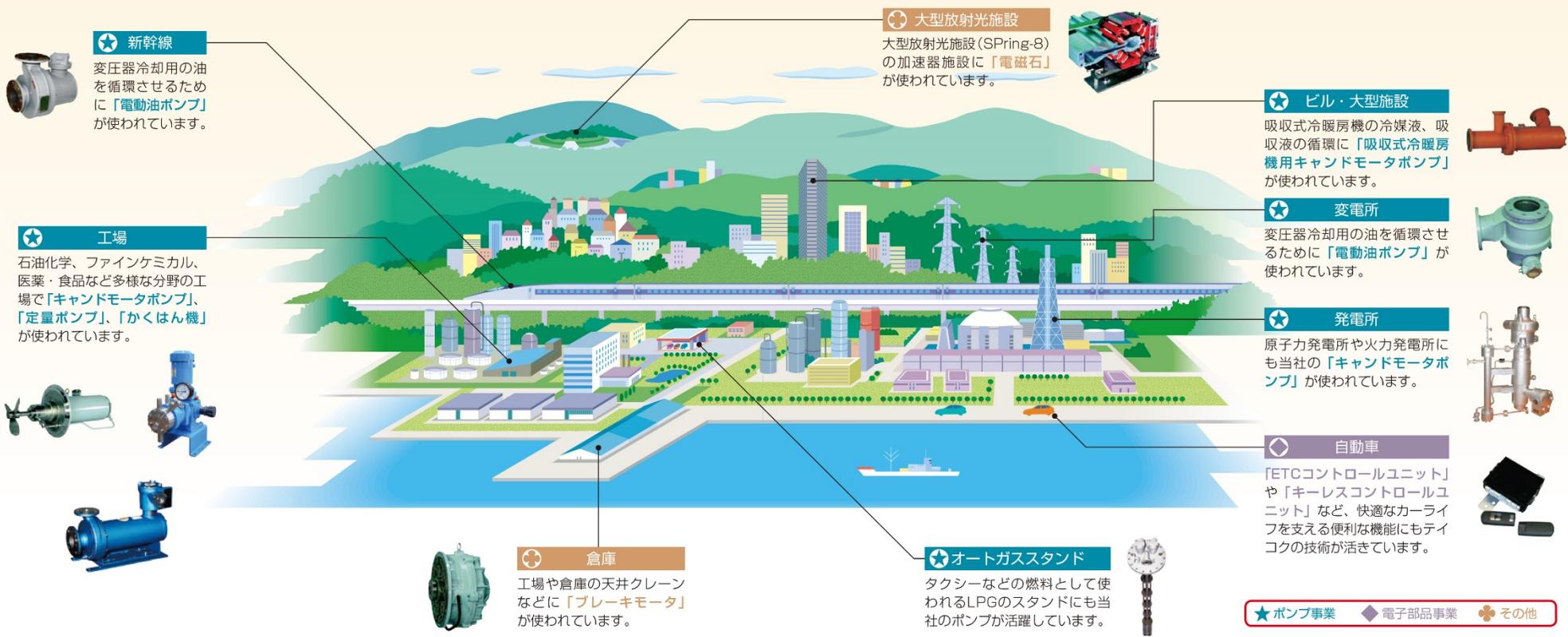
産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のテイコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



★ ポンプ事業 ◇ 電子部品事業 ⊕ その他

本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。